

令和6年度 第1回

平戸市総合戦略推進委員会

会議録

と き：令和6年7月9日（火）13：00～15：00

ところ：平戸市未来創造館2階会議室B

開催日時	令和6年7月9日（火） 13:00～15:00
開催場所	平戸市未来創造館2階会議室B
出席委員 (50音順、敬称略)	赤木明子、井芹裕貴、小楠長己、柿野朋之、木田真弓、坂元洋一郎、田口増巳、辻俊郎、原田和寛、福田章、松崎利恵子、松田隆也、松山恵美、松山芳弘（14名）
欠席委員 (50音順、敬称略)	山中兵恵（1名）
事務局 (財務部企画課)	藤山課長、塚本参事兼政策企画班長、作江主任主事、平山会計年度任用職員
事業担当課	なし
次第	
1 開会	委嘱状交付及び委員の紹介
2 副市長 あいさつ	松田副市長
3 会長及び 副会長選出	事務局案として会長に坂元委員、副会長に松田委員を選出し、承認。
4 会長 あいさつ	坂元会長
5 議題 (1) 平戸市総合戦略について (2) 本市の人口動態等について 委員	<p>(資料1により平戸市総合戦略の概要・指針・人口推計等について事務局説明)</p> <p>(資料2により平戸市の人口動態について事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p> <p>資料2の12ページで出生数の推移が書かれているが、それまでは横ばいで推移していたものが令和3年頃からだいぶ減少しているようであり、この要因を教えてほしい。</p>

事務局	<p>明確に原因の分析はできていない。令和元年から 2・3 年にかけて出生・死亡・転入・転出全て下降しており、やはりコロナウィルス感染症の関係で人の動きが全て停滞している点が要因の一つかと思っている。女性の人口減少など、複数の要因が重なっているのではないかとと思われる。</p>
委員	<p>コロナウィルスの影響は、平戸だけでなく全国的にもあると思う。その中で、平戸市としてもなんとか人口減少を抑えるために、何か戦略に盛り込んでいかないといけないと思う。</p>
委員	<p>平戸市内の婚姻数の統計を取っているか？</p>
事務局	<p>今手持ちで資料がありません。確認する時間をください。</p>
委員	<p>平戸市独自の推計人口と、国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の推計人口が大きく異なっているが、社人研は現状のままの推移であり、自治体独自の推計は目標を加味しているなどの違いがあるのか。</p>
事務局	<p>社人研の数値は現状の出生率など、総合的に見て社人研が算出している。平戸市の推計人口の基礎になっているのは、2040 年に社会増減が均衡になり、且つ合計特殊出生率が 2.5 になると仮定した場合にこの曲線となると推計している。その曲線を描くために、こういった政策を打ち出していくのかというのを、今回の平戸市総合戦略の政策としてまとめている。</p> <p>先ほどの婚姻数の質問について、詳しい数字は手元に無いが平成 28 年度が 126 組、令和元年度が 93 組と、だんだん減ってきている。令和 2 年度以降は持ち合わせていない。</p>
委員	<p>16 ページの令和元年年齢別転入転出人口について、15～35 歳くらいまでの転出が多くなっているが、令和 5 年までも含めて要因は同じよう</p>

<p>事務局</p> <p>委員</p>	<p>な傾向か？</p> <p>正確な回答になるかわからないが、特に20歳から29歳までの転出が多い状況。当然10代も多いが、10代はやはり高校卒業後にすぐ都会に出ていく人であり、20歳から24歳が多いのは、住民票を置いたまま大学に行った人が、就職した際初めて住所を移すことによる影響もあると思っている。</p> <p>私の周りでも、就職する際に初めて住所を移す人が多い。戦略として、やはり若者を引き留めていかなきゃいけないと思う。近年ずっとこのような流れなので、若者流出を食い止める部分が戦略に盛り込まれるべき。</p>
<p>(3)第3期平戸市総合戦略策定における基本的な考え方及びスケジュール</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>(資料3により、第3期総合戦略の策定における概要・スケジュールについて事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p> <p>説明の補足。第2期平戸市総合戦略が今年度で終わったあと、3年間の戦略を策定するというのは、別途策定されている第2次平戸市総合計画が令和9年度までとなっているため終期を揃えて、令和10年度からは一体的に策定する方針としているためである。</p> <p>今回、終期を総合計画に合わせるために通常5年のところを3年にするというので、スケジュール的には大丈夫なのか。</p> <p>今まで5年だったものを3年にするため、確かに今までとやり方が変わる部分があるかもしれない。総合戦略は、平戸市の一番上位の計画（総合計画）の中の人口減少対策について引き抜いて特化したものという位置づけである。2つの計画を並行して評価検証を行っていく</p>

	<p>と、委員・事務局共に負担がかかる点に加え、政策も当然ながら重複するため、統一させてもらいたいという考えである。3年間とは言え、事業は単年度で評価検証を行っていく。また、全体的な評価検証の在り方を考えていかねばならない。</p> <p>委員 3年で終わりということではなく、3年が終わった後も継続して評価検証していくという理解で良いか。</p> <p>事務局 その通りであり、3年後は新たな形での戦略を、次は5年というサイクルで計画していくことになる。</p>
<p>(4) 平戸市総合戦略に関するアンケート調査(案)について</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>委員 商工物産課</p>	<p>(資料4により、平戸市総合戦略に関するアンケート調査(案)について事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p> <p>アンケートの対象年齢が20歳から59歳となっているのは、やはり若い方々の意見を聞きたいからということか。</p> <p>第2期策定の時のアンケートもこの年齢であったが、委員の意見を聞いて判断したい。</p> <p>離島では定年してから島へ帰ってくる場合がある。そういう方はボランティア活動に取り組んだりしているが、もし収入を得られるような場があれば離島の活性化にもつながり、活躍の場があれば生きがいにも繋がると日頃から考えていた。そのような60代前半の方の意見も聞けたらよいのではないか。</p> <p>先ほどの意見は、アンケートの対象だけでなく何か事業を打ち出すための意見として捉えられたらいいと思う。アンケートの対象は市民を無作為に3,000人選ぶとしているが、内容から考えるとむしろ、若い</p>

	夫婦や都会から来た人の意見を参考にすべき。地元の人では気づけない部分や、若い人が都会に憧れる理由がわかったり、あえてUターンの人を選ぶことで中身の濃い意見が出るのではないかな。
事務局	無作為に限らず、U I ターンなど若い人たちの意見も聞けるよう枠を考えてみたい。
委員	対象年齢について、18歳ももう成人になるため18歳以上くらいで考えてもいいのではないかな。
事務局	18歳以上も検討し、できればそこまで広げたいと思う。
委員	対象年齢を広げることに同感である。前回のアンケートの回答率はどうだったのかな。
事務局	回答率が手元に無いため、後程回答する。前々回が32%くらいであったため、前回は少しテコ入れして40%ほどに引き上げた記憶がある。回答率を上げることは大事であり、今回平戸市公式LINEによる回答も取り入れることとした。
委員	企業の代表者に話をし、社員に答えてもらうという方法もあるのではないかな。
事務局	事業所に対するアンケートは内部でも検討しており、従業員までできるかはわからないが前向きに検討したい。
委員	大分県の臼杵市では移住定住者がとても多く、自然環境も人気があるようである。どういう工夫をしているか知るためにも、今後複数回机上での会議があると思うが、先進地視察に行くことで総合戦略策定にも活かせるのではないかな。

事務局	<p>会議形式で議論するよりも、1回くらいは先進地視察を行ってみたいと思う。臼杵市は積極的に取り組んでおり、年間に平戸市の倍くらいの移住者が来ている。支援内容が似通っている部分もあるが、実際行ってみないとわからない部分もあると思う。</p>
委員	<p>小学校・中学・高校と子育てをしていく中で、子供たちを学ばせたい、いろいろな体験をさせたいということで、市外の学校を選択するケースが周りにはよくあり、中には親も一緒についていくケースも増えていると感じる。子育てのアンケートでよく、出産から就学前までというものはあるが、逆に中学から高校くらいまでの子供を持つ親の意見を取り入れるような項目を増やすとよいのではないか。</p>
事務局	<p>今の意見は持ち帰らせていただき検討したい。子供が中学から遠方に行くため通学が大変になるので、親も一緒についていくということが人口減少につながっているのではという議論は5年前にも行われており、結局答えは出なかった。そのような状況が実際にあるため、意見を吸い上げる方法があるか検討したい。</p>
委員	<p>人口動態で一番転出が多いのは20～24歳であり、大学を出て県外就職をするという点であるので、そういった点も反映されたアンケートにしてほしい。</p>
委員	<p>対象者に戻るが、昨今の風潮を見ていると、男性・女性の次に3番目の姓があった方が良いのではないか。その方が移住者などに、平戸市が進んでいると認識してもらえないのではないか。</p>
事務局	<p>アンケートについて内部でも、性別の項目があるのかどうかという話をして悩んだところ。しかしその後の項目で、女性はどう思っているのか、男性はどう思っているのかという話になってしまうため分けておかないといけない。委員の意見を聞いた上で、性別の項目を無くしても構わないが、今のところは残している。</p>

委員	<p>人口減少の要因の一つが確かに若い女性の減少であり、女性を中心に考える部分がある。しかし人口動態の中には若い男性も入っており、仕事や遊興の場所を求めている状況もあると思われるため、若い女性だけでなく男性の居場所も必要。20歳から24歳の人口減少をどう捉えるかだと思うので、アンケートにぜひ盛り込んでもらいたい。</p>
事務局	<p>情報の出どころはわからないが、人口減少対策を行うときに男性だけが100人増えても人口は増えない、将来的な人口減少は抑制できないと断言したものがあつた。今回、若い女性の定着という点を追加したが、委員が言うように男性の部分についても検討したい。</p>
委員	<p>問9の雇用・労働条件の項目を男女で分けた理由は？</p>
事務局	<p>前回もこの項目があつてあえて残した。この項目の意図は確認していないが、恐らく男女での子供の接し方など、ワークライフバランスの調和のあり方という部分で違いがあると思われる。その違いをあえて載せているだけであるが、必要無いというご意見があれば、性別の項目と一緒に削るか検討する。</p>
委員	<p>一つにまとめた方がすっきりするのではないか。</p>
委員	<p>現在ワークライフバランスで男女差は無くなってきているため、まとめた形で検討してもらいたい。</p>
委員	<p>先ほどから20歳から49歳の女性の人口減が、出生数の減少の主な要因と言われているが、女性の人口減と出生率低下はリンクしていないと思われるので違った要因があるのではないか。このアンケート内容を見ていくと、結論付けるような内容になっているのではないか。結論を求めるのではなく、原因を求めた方がよいと思う。そうするとまた、メスの入れ方が変わってくる。結論を最初から求めるアンケート</p>

	<p>では抜本的な改革にはならないと思うので、アンケートの内容については、原因を追究するようにした方がいいのではないかと。</p>
委員	<p>アンケートの取り方で提案。住民票を異動するために窓口に来る人たちに対してアンケートを取れば、どんな理由で転入転出するかが出てくると思う。</p>
事務局	<p>転入転出者に対するアンケートは、今手元にアンケート結果は持ち合わせていないが、県下全市町で現在実施しており、転入転出の要因は答えてもらっている。しかし、今年度、県下全市町でという形は一旦終了するため、担当課として継続していくかまだ結論は出していない。</p>
委員	<p>先ほどから出ている意見のとおり、転入転出に係る部分が一番の要因だと思うので、転入転出者の意見を聞いて戦略に反映できるように検討してほしい。</p>
事務局	<p>転入転出に係るアンケート内容については、次回以降お示ししたい。</p>
委員	<p>今出た色々な改善点について、最終的にはどうするか。</p>
事務局	<p>担当課に確認する項目もあるため、十分今日の意見を反映させる形で、最後は事務局に一任願いたい。</p>
委員	<p>それでは、これまでの意見を踏まえた形で修正の上、アンケートを実施するということが良いか。後日気づいたことなども事務局に連絡してほしい。以上で協議を終結する。</p>
事務局	<p>今後の日程調整については、紙ではなくなるべくオンライン対応に代えていければと思う。</p>
5 開会	<p>(閉会あいさつ)</p>